

21世紀の日本のかたち（109）

南北朝鮮融和、そして平和の海、日本海への願い



戸沼幸市

<（一財）日本開発構想研究所 代表理事>

1. 南北朝鮮融和への動き-首脳会談

2018年平昌冬季オリンピック・パラリンピックの後、間髪を入れず、3月、4月、5月、6月と、北朝鮮の非核化、南北朝鮮の融和を求める関係諸国の首脳会談が開催されました。

南北朝鮮首脳会談

平昌冬季オリンピック・パラリンピックの南北朝鮮融和ムードを引き継ぐように、4月27日、金正恩朝鮮労働党委員長（34才）が、半島分断の38度線、板門店の軍事境界線を越えて、文在寅韓国大統領（65才）と固い握手を交わし、「新しい歴史はこれから。平和の時代、歴史の出発点にて」と両首脳は芳名録に署名しました。

写真1 軍事境界線を一緒に越える金正恩朝鮮労働党委員長（左）と文在寅韓国大統領（右）



資料：朝日新聞（2018年5月27日）

南北朝鮮の首脳会談は、2000年の金大中韓国大統領、2007年の盧武鉉大統領と、北朝鮮

金正日委員長の平壤会談以来のことです。

平昌冬季オリンピックを起点とする南北朝鮮の融和ムードが、文在寅、金正恩の「平和の家」での会談に引き継がれ、21世紀は新しい世代による長年の朝鮮民族融和への意欲が感じられます。そして両首脳による歴史的な文章「板門店宣言」が行われました。

写真2 南北首脳会議で握手する文在寅大統領（左）と金正恩委員長（右）



資料：朝日新聞（2018年5月27日）

「両首脳は、朝鮮半島でのこれ以上戦争がなく、新たな平和の時代が開かれたことを、8,000万の我が民族と全世界に厳粛に宣明した。両首脳は定期的な会談と直通電話を通じ、民族の重大事項を随時、真摯に論議し、信頼を堅固にし、南北関係の持続的な発展と朝鮮半島の平和と繁栄、統一に向けた良い流れをさらに拡大してい

くために共に努力する。

文在寅大統領は今年秋に平壤を訪問する。

2018年4月27日板門店

両首脳署名」

■板門店宣言（骨子）

- ・完全な非核化を通じて、核のない朝鮮半島を実現する共同の目標を確認
- ・今年、終戦を宣言し、休戦協定を平和協定に転換し、平和体制を構築するため、南北米の3者または南北米中の4者会談の開催を推進
- ・文在寅大統領が今年秋に平壤を訪問
- ・当局者が常駐する南北共同連絡事務所を開城に設置
- ・8月15日を契機に離散家族、親戚の対面を進める
- ・軍事的緊張と衝突の根源となる一切の敵対行為を全面中止

（要約：朝日新聞）

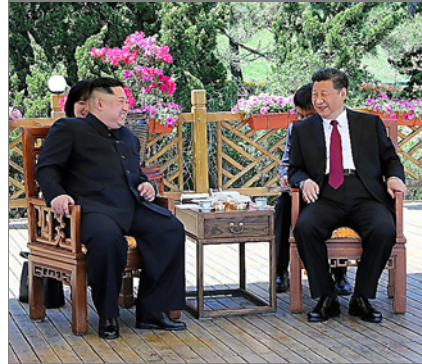
第2回南北朝鮮首脳会談は2018年5月26日に板門店で再度行われましたが、これは6月12日予定の米朝首脳会談の事前調整的なものと報じられています。と同時に、今後、南北首脳会談は常態的に行われることを示すものとも受け取られます。

朝鮮半島における南北融和は他国問題であるよりも、なによりも朝鮮民族自体の問題に違いありません。

中朝首脳会談

金正恩北朝鮮委員長は、今年3月以降に入って習近平中国国家主席（65才）を三度訪問し、会談を重ねました。3月6日の北京、5月7、8日の大連、そして6月12日のトランプ米大統領とのシンガポールでの会談の後、6月19、20日北京でと会談を重ねております。

写真3 中国大連で会談する金正恩朝鮮労働党委員長（右）と習近平中国国家主席（左）



資料：読売新聞（2018年6月9日）

いずれの時も、北朝鮮の若い金正恩委員長を包み込むように迎え入れる習近平中国主席の親愛の情が溢れているような映像が配信されておりました。北朝鮮と中国とは、長大な歴史を通じて隣国同志であり、共に社会主義国です。朝鮮戦争（1950～53（休戦中））における同盟軍（中朝連合軍）として、国連軍（韓国米軍）と敵対した関係にあります。

写真4 中国大連での会談後、一緒に歩く金正恩委員長（右）と習近平国家主席（左）



資料：読売新聞（2018年6月9日）

中朝会談では、北朝鮮の非核化、平和の構築、今後の経済問題、習中国主席の北朝鮮への訪問の約束などが話し合われたとされております。トランプ米大統領との会談に際して

は米韓軍事演習の中止などを進言したとも伝えられております。若い金正恩氏をバックアップする隣国の超大国中国との親和の構図が効果的に映し出される両首脳のパフォーマンスでした。

米朝首脳会談

2018年6月12日、世界のメディアが注視する中、シンガポールでのトランプ米大統領（72才）と金正恩朝鮮労働党委員長（34才）が両国の国旗の前で笑顔で握手をし、首脳会談が行われました。そしてその日、両首脳による共同声明に署名がなされました。

共同声明の主な内容として次のようなものが報道されています。

- ・トランプ米大統領は北朝鮮の安全保障を約束
- ・金正恩北朝鮮委員長は朝鮮半島の完全な非核化に向けた責務を再確認
- ・朝鮮半島の永続的で安定的な平和体制の構築に協力して努める。
- ・新たな米朝関係の樹立を約束する
- ・北朝鮮と韓国による「板門店宣言」を再確認
- ・朝鮮戦争時の捕虜、行方不明者の遺骨回収に取り組む
- ・成果実行へ米朝交換で交渉継続

（朝日、読売、日経新聞記事参考）

世界が注目する報道の中で、今回の米朝首脳会談の実現は、多分に実業家（不動産業）出身のトランプ米大統領のトップダウン型の政治スタイルがあるとされ、トップダウンで方向を示し、交渉人（ポンペイオ国務長官）が後を引き継ぐとは、魑魅魍魎の政治世界にあって私どもにも解しやすい構図です。

シンガポールでの今回の米朝首脳会談では、老齢に差し掛かっている赤いネクタイの金髪

のアメリカ大統領と、人民服を着た丸顔の若い東洋人のコントラストが際立って、人々の印象にも残りました。

米朝首脳会談についてはトランプ流を危ぶむ様々な論評がありますが、是非とも朝鮮半島における非核化の進展と、南北朝鮮の和解、平和な北東アジアの構築に向けた一歩となつてほしいものです。

写真5 シンガポールで共同声明に署名し握手するトランプ米大統領（右）と金正恩朝鮮労働党委員長（左）



読売新聞 2018年6月13日

2. 南北朝鮮融合、平和の海、日本海への願い

朝鮮戦争（1950～53（休戦中））の記憶

今回の南北首脳会談、米朝首脳会談でも、南北朝鮮分断、朝鮮戦争「終結」宣言は盛り込まれませんでした。

私など同世代の70、80才の韓国の友人達は、今もあの戦争の悲惨さを生々しく記憶に留めております。

1950年6月25日の北朝鮮（金日成主席）の大々的韓国攻撃。同年9月15日、国連軍（米軍）マッカーサー司令官の仁川上陸。中国（毛沢東主席）義勇軍の参戦と、朝鮮戦争は一進一退を繰り返し、3年に及びました。そしてようやくソ連の仲介によって休戦し、現38度線における南北朝鮮の分断固定がなされ、

これが今に続いております。

この間、同じ民族同士が血で血を洗う戦争、犠牲者は数百万人、離散家族は一千万人に及ぶとされております。日本においても私などの世代は、沖縄基地から飛び立つ米軍機、日本の特需景気などを複雑な気持ちで眺めていたことを思い出します。

かの戦争から 65 年、今回の朝鮮半島の融和を求める南北首脳は、金正恩氏（34 才）、文在寅氏（65 才）といわば朝鮮戦争、戦後世代であり、激動する地球時代、恩讐を越えて平和な未来を築いてもらいたいものです。南北朝鮮和解の図には、やや年上の中国の習近平主席（65 才）も米国のトランプ大統領（72 才）も、事態の推移を好意的に見守っている雰囲気も感じられます。

日本の立場、日朝交渉の再開を

日本政府も北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）とは幾度となく日朝国交正常化の交渉を続けております。特に 2002 年 9 月 17 日の日本国・小泉純一郎総理大臣と、北朝鮮・金正日委員長の平壤会談、日朝国交正常化交渉を再開するとして「日朝平壤宣言」は大きな成果でした。

日朝国交正常化交渉を再開するに際し、日本が植民地支配に対する痛切な反省と心からのお詫びの気持ちを表明、多方面な経済協力、日本国家の生命と安全に関わる懸案（拉致問題）問題についての適切な措置、核問題ミサイル問題を含む安全保障に関わる問題についての協議などが明記されております。

日朝国交正常化の障害、拉致問題について未だ進展が見られないままなのは残念なことです、日本政府が韓国頼み、米国頼みなの

は如何なものか。

平昌冬季オリンピック後の南北朝鮮、米朝、中朝首脳会談にみる朝鮮半島情勢、北東アジア情勢の急速な変化に対し、平和な北東アジアの構図にむけて日本政府として自ら大きく関わりを持って欲しいものです。

表 1 戦後の日朝交渉

1971（昭和 46）	日朝友好促進議員連盟発足
1990（平成 2）	金丸元自民党副総裁、田辺誠社会党副委員長が訪朝、日朝 3 党共同宣言
1991（平成 3）	第 1 回日朝国交正常化交渉本会議
1992（平成 4）	第 8 回日朝国交正常化交渉、李恩恵問題で中断
2002（平成 14）	小泉首相訪朝、平壤で日朝首脳会談「日朝平壤宣言」に署名
2004（平成 16）	小泉首相再訪朝

作成：戸沼

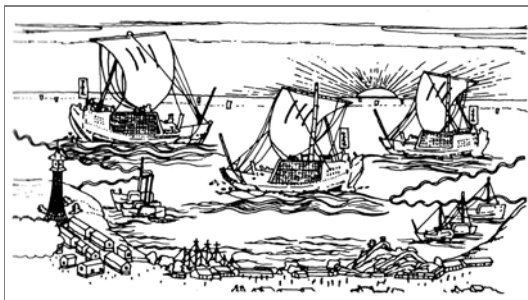
平和な海、日本海への願いー 21 世紀の日本のかたち

戦後日本の国家、国土計画において、人口や財の東京一極集中、太平洋地域の繁栄に対して、日本列島日本海国土軸の活性化は大きなテーマでした。

1970 年代にはソ連（ロシア）との国交回復の動き、南北朝鮮の和解と、日韓に続く日朝国交回復の動きもあり、日本海沿岸域の振興への期待が高まりました。私も参加した早稲田大学 21 世紀の日本案では、日本列島を逆転させた環日本海時代を想定した図案を画きました。日本海側の諸地域、新潟、富山、福井県なども様々なプロジェクトを打出しておりました。私自身、生まれは青森県津軽・鯨ヶ沢ですが、ここは津軽藩の藩港であり、江戸北前船の寄港地の一つでした。1990 年代、青森県では日本海時代に備えてここに津軽新港を造りました。後背地には世界遺産、ブナの

森「白神山地」があります。

図1 日本海の拠点港として栄えた鯨ヶ沢



出典：『あづましい未来の津軽』早稲田大学都市計画研究室・戸沼幸市編、津軽書房、1982

この時、私も呼ばれて日本海時代に備えた「あづましい未来の津軽」構想を画いております。そして津軽新港に、日本海から対岸の諸地域、ロシアや朝鮮半島の港々をつながることを願って、日本海拠点館の設計に参画しております。

図2 日本海拠点館あじがさわ ①



資料：『鯨ヶ沢日本海拠点館・竣工写真』1997.8

図3 日本海拠点館あじがさわ ②



資料：『鯨ヶ沢日本海拠点館・竣工写真』1997.8

昨年の9月、11月には、青森、秋田の海、300kmの場所に、北朝鮮からのミサイルが落下したのです。日本列島、日本海域には原発も並んでおります。北朝鮮の非核化は一衣帯水の日本の安全にとって不可欠のことであり、北朝鮮の非核化のプロセスは注視すべきことに違いなく、「核」のない平和な海、日本海を改めて願わずにはおれません。そしてこの事態を逆バネにして、日本海域、北東アジアの平和な人間居住の構築に向かいたいものです。

図4 夢の日本海環状弾丸ルート



出典：『動き始めた環日本海経済圏—21世紀の巨大市場』藤間丈夫、創知社、1991

【参考文献】

- ・「あすの日本海—開発の思想」新潟日報編 新潟新社 1971.2
- ・「新版北朝鮮入門—金正恩体制の政治・経済社会・国際関係」磯崎敦仁・澤田克己 東洋館経済新報社 2017.1

(2018.07.07)